

♪赤とんぼ

一、夕焼小焼の、赤とんぼ
負われて見たのは、いつの日か

二、山の畑の、桑(くわ)の実を
小籠(こかご)に摘んだは、まぼろしか

三、十五で姐(ねえ)やは、嫁に行き
お里のたよりも、絶えはてた

四、夕焼小焼の、赤とんぼ
とまっているよ、竿(さお)の先

♪故郷の空

一、夕空はれて あきかぜふき
つきかげ落ちて 鈴虫なく
おもえば遠し 故郷の空
ああ わが父母(ちちはは) いかにおわす

二、すみゆく水に 秋萩(あきはぎ)たれ
玉なす(たまなす)露(つゆ)は すすきに
みつ
おもえば似たり(にたり) 故郷の野辺(の
べ)
ああ わが兄弟(はらから) たれと遊ぶ

※一番をもう一度

♪朧月夜

一、菜の花畠(なのはなばたけ)に 入日(い
りひ)薄れ(うすれ)
見わたす山の端(やまのは) 霞(かすみ)ふかし
春風(はるかぜ)そよふく 空(そら)を見れば
夕月(ゆふづき)かかりて におい淡し(あわし)

二、里(さと)わの火影(ほかげ)も 森(もり)の色(いろ)も
田中(たなか)の小路(こみち)を たどる
人も

蛙(かわず)のなくねも かねの音(ね)も
さながら霞(かすみ)める(かすめる) 朧(おろ)月(づき)夜(よ)

♪海(松原遠く～)

一、松原(まつばら)遠く 消(き)ゆる(きゆる)
ところ

白帆(しらほ)の影(かげ)は浮(う)ぶ
干網(ほしあみ)浜(はま)に高(たか)くして
鷗(かもめ)は低(ひか)く波(なみ)に飛(と)ぶ
見(み)よ昼(ひる)の海(うみ)
見(み)よ昼(ひる)の海(うみ)

二、島山(しまやま)闇(やみ)に 著(つ)き(し
る)き)あたり
漁火(いさりび)光(ひかり)淡(あ)わし
寄(よ)る波(なみ)岸(かた)に緩(ゆる)くして(ゆるくし
て)
浦風(うらかぜ)軽(かろ)く(かろく)沙(いさご)
吹(ふ)く

見(み)よ夜(よ)の海(うみ)
見(み)よ夜(よ)の海(うみ)

♪四季の雨

一、降(ふ)るとも見(み)えじ春(はる)の雨(あめ)
水(みづ)に輪(りん)をかく波(なみ)なくば
けぶるとばかり思(おも)わせて
降(ふ)るとも見(み)えじ春(はる)の雨(あめ)

二、俄(と)かに(にわか)に 過(す)ぐる夏(なつ)の雨(あめ)
物(もの)ほし竿(さお)(ものほしざお)に白(しら)露(つゆ)(しらつゆ)
を
なごりとしばし走(は)らせて
俄(と)かに過(す)ぐる夏(なつ)の雨(あめ)

三、おりおりそそぐ秋(あき)の雨(あめ)
木(き)の葉(は)(このは)木(き)の実(み)(このみ)を野(の)に山(やま)
に
色(いろ)様(さま)々(ざま)にそめなして
おりおりそそぐ秋(あき)の雨(あめ)

四、聞くだに寒き冬の雨

窓の小笹（おざさ）にさやさやと
更行く（ふけゆく）夜半をおとずれて
聞くだに寒き冬の雨

♪船頭さん

一、村の渡し（わたし）の 船頭さんは
今年六十の お爺さん（おじいさん）
としはとっても お船をこぐ時は
元気いっぱい 櫓（ろ）がしなる
ソレ ギッチラ ギッチラ ギッチラコ

二、雨の降る日も 岸から岸へ
ぬれて船こぐ お爺さん
今朝（けさ）もかわいい 仔馬（こんま）を
二匹（にひき）
向う（むこう）牧場（まきば）へ 乗せてつ
た
ソレ ギッチラ ギッチラ ギッチラコ

三、川はきらきら さざなみ小波（こなみ）
渡す にこにこ お爺さん
みんな にこにこ ゆれゆれ渡る
どうもご苦労さんと 言って渡る
ソレ ギッチラ ギッチラ ギッチラコ

♪港

一、空も港も夜（よ）ははれて
月に数（かず）ます船のかけ
端艇（はしけ）の通いにぎやかに
寄せくる波も黄金（こがね）なり

二、林なしたる檣（ほばしら）に
花と見まごう船旗章（ふなじるし）
積荷（つみに）の歌のにぎわいて
港はいつも春なれや

※一番をもう一度

♪仲よし小道

一、仲よし小道は どこの道
いつも学校へ みよちゃんと
ランドセル背負って（しょって） 元気よく
お歌を歌って 通う道

二、仲よし小道は うれしいな
いつもとなりの みよちゃんが
にこにこあそびに かけてくる
なんなんの花 匂う（におう）道

三、仲よし小道の 小川には
とんとん板橋（いたばし） かけてある
仲よく並んで 腰かけて
お話するのよ たのしいな

四、仲よし小道の日ぐれには
母さまお家で お呼びです
さよならさよなら また明日
お手手をふりふり さようなら

♪あめふり

一、あめあめ ふれふれ かあさんが
じゃのめで おむかい うれしいな
ピッチピッチ チャップチャップ
ランランラン

二、かけましょ かばんを かあさんの
あとから ゆこゆこ かねがなる
ピッチピッチ チャップチャップ
ランランラン

三、あらあら あのこは ずぶぬれだ
やなぎの ねかたで ないている
ピッチピッチ チャップチャップ
ランランラン

四、かあさん ぼくのを かしましょか

きみきみ このかさ さしたまえ
ピッチピッチ チャップチャップ
ランランラン

五、ぼくなら いいんだ かあさんの
おおきな じゃのめに はいってく
ピッチピッチ チャップチャップ
ランランラン

♪おもちゃのマーチ

一、やっこやっこ
くりだした
おもちゃのマーチが
らったった
人形のへいたい せいぞろい
おうまもわんわも
らったった

二、やっこやっこ
ひとまわり
きゅーぴもぼっぼも
らったった
フランス人形も
とびだして
ふえふきや たいこが
ぱんぱらぱん

※一番をもう一度

♪汽車ポッポ (本居長世)

お山の中ゆく
汽車ポッポ
ポッポポッポ
黒い煙 (けむ) を出し
シュシュシュ
白い湯気 (ゆげ) ふいて
機関車と機関車が
前引き後押し
なんだ坂こんな坂

なんだ坂こんな坂
トンネル鉄橋
ポッポポッポ
トンネル鉄橋
シュシュシュ
トンネル鉄橋
トンネル鉄橋
トンネルトンネル
トントント
のぼりゆく

※繰り返します

♪めえめえ兎山羊

めえめえ 森の兎山羊 (こやぎ) 森の兎山
羊
兎山羊走れば 小石にあたる
あたりや あんよが あ痛い
そこで兎山羊は めえと鳴く

めえめえ 森の兎山羊 森の兎山羊
兎山羊走れば 株 (かぶ) こにあたる
あたりや 頭 (あんま) が あ痛い
そこで兎山羊は めえと鳴く

藪 (やぶ) こあたれば 腹 (はら) こがちく
り
朽木 (とっこ) あたれば 頸 (くび) こが折
れる
折れりや兎山羊は めえと鳴く

♪かたつむり

一、でんでん虫々 かたつむり
お前のあたまは どこにある
角 (つの) だせ槍 (やり) だせ あたまだせ

二、でんでん虫々 かたつむり
お前のめだまは どこにある
角だせ槍だせ めだまだせ

※一番をもう一度

♪雀の学校

※前奏「ちいちぱっば ちいぱっば」があります。

ちいちぱっば ちいぱっば
雀の学校の 先生は
むちを振り振り ちいぱっば
生徒の雀は 輪になって
お口をそろえて ちいぱっば
まだまだいけない ちいぱっば
も一度一緒に ちいぱっば
ちいちぱっば ちいぱっば

※繰り返します。

♪俵はごろごろ

俵はごろごろ
お倉（おくら）にどっさりこ

お米はざっくりこで
チュウチュウねずみは
にっこりこ

お星さまぴっかりこ
夜のお空で
ぴっかりこ

※最初からもう一度

♪こうま

一、はいしいはいしい あゆめよこうま
山でもさかでも ずんずんあゆめ
おまえがすすめば わたしもすすむ
あゆめよあゆめよ 足おとたかく

二、ぱかぱかぱかぱか 走れよこうま
けれどもいそいで つまずくまいぞ
おまえがころべば わたしもころぶ
走れよ走れよ ころばぬように

※一番をもう一度

♪荒城の月

一、春高樓（こうろう）の花の宴（えん）
めぐる盃かけさして
千代の松が枝わけいでし
むかしの光いまいずこ

二、秋陣営（じんえい）の霜の色
鳴きゆく雁の数見せて
植うるつるぎに照りそいし
むかしの光いまいずこ

三、いま荒城のよわの月
替わらぬ光たがためぞ
垣（かき）に残るはただかづら
松に歌うはただあらし

四、天上影は替わらねど
栄枯（えいこ）は移る世の姿
写さんとてか今もなお
嗚呼（ああ）荒城のよわの月

♪人を恋うる歌

一、妻をめとらば才たけて
みめうるわしく情ある
友をえらばば書を読みて
六分（りくぶ）の俠氣（きょうき） 四分の
熱

二、恋のいのちをたずぬれば
名を惜しむかな男の子（おのこ）ゆえ
友の情をたずぬれば
義のあるところ火をも踏む

三、あわれコレッジの奇才（きさい）なく
パイロン ハイネの熱なきも
石をいだきて野にうたう
芭蕉のさびをよろこばず

♪砂山（山田耕筰）

一、海は荒海 向こうは佐渡よ
すずめなけなけ もう日は暮れた
みんな呼べ呼べ お星さま出たぞ

二、暮れりや砂山 汐鳴（しおなり）ばかり
すずめちりぢり また風荒れる
みんなちりぢり もう誰も見えぬ

三、かえろかえろよ 茱萸原（ぐみわら）わ
けて
すずめさよなら さよならあした
海よさよなら さよならあした

♪出船

一、今宵（こよい）出船か
お名残（おなごり）惜しや（おしや）
暗い波間に 雪が散る
船は見えねど 別れの小唄に
沖じゃ千鳥も 泣くぞいな

二、今鳴る汽笛は
出船の合図（あいず）
無事で着いたら 便り（たより）をくりやれ
暗いさみしい 灯影（ほかげ）の下で（もとで）
涙ながらに 読もうもの

♪ゴンドラの唄

一、いのち短し 恋せよ少女（おとめ）
朱（あか）き唇 褪（あ）せぬ間に
熱き血潮の 冷えぬ間に
明日の月日は ないものを

二、いのち短し 恋せよ少女
いざ手をとって 彼（か）の舟に
いざ燃ゆる頬を 君が頬に
ここには誰れも 来ぬものを

三、いのち短し 恋せよ少女
波に漂（ただよ）う 舟の様（よ）に
君が柔手（やわて）を 我が肩に
ここには人目も 無いものを

四、いのち短し 恋せよ少女
黒髪の色 褪せぬ間に
心のほのお 消えぬ間に
今日はふたたび 来ぬものを

♪ゆりかごのうた

一、ゆりかごのうたを
カナリヤが歌うよ
ねんねこ ねんねこ
ねんねこよ

二、ゆりかごの上に
枇杷（びわ）の実が揺れるよ（ゆれるよ）
ねんねこ ねんねこ
ねんねこよ

三、ゆりかごの綱（つな）を
木ねずみが揺するよ
ねんねこ ねんねこ
ねんねこよ

四、ゆりかごの夢に
黄色い月がかかるよ
ねんねこ ねんねこ
ねんねこよ